

タイトル : 2017 Middle Eastern and Islamic Studies in Japan: The State of the Art (No.11)

日時 : 2017 年 11 月 29 日(水)10:00~13:20

場所 : Japan Center for Middle Eastern Studies, 2nd Floor, A2-1, Azariyeh Bldg, Beirut Central District

“What is Higher Education for? : Women and Educational Attainment in the GCC”

沈 雨香(早稲田大学 博士課程)

報告内容

本報告の目的は、中東湾岸諸国の女子を対象にして行われた質的・量的調査の分析結果から、高等教育をめぐる意識と行動を明らかにし、その役割を考察することであった。近年、中東の湾岸諸国(Gulf Cooperation Council: サウジアラビア、アラブ首長国連邦、カタール、クウェート、オマーン、バーレーン、以下 GCC 諸国)では、人的資源確保のための教育、特に高等教育の拡大に力を入れており、急激な高学歴化が進行している。今まで近代社会における教育、特に高等教育の役割が、主に社会的地位獲得や地位表示の手段として語られており、教育、特に高等教育の成果は労働市場と密接に結びつきの中、その機能も社会・経済的地位の獲得及び達成のための手段として説明されてきた。しかしながら、中東の湾岸諸国の場合、労働市場に結びつかない高学歴女性が増えており、その社会における高等教育の役割に関する疑問が高まっている。そこで本報告では、GCC の 15 歳以上の女性を対象にした教育と就労に対する意識調査結果を基に、彼女たちの①教育アスピレーション、②大学進学・学歴取得の目的、③価値意識、④労働に対する意識、⑤結婚に関する意識を浮かび上がらせ、彼女らの高学歴志向が必ずしも労働市場や結婚市場に結びついていないことを明らかにし、GCC ならではの社会背景を考慮した新たな理論枠組みが必要であることを示唆した。

ディスカッションの概要

本報告のコメンテーターは American University of Beirut, Department of Economics の Pierre Mouganie 准教授であった。Mouganie 准教授は中東の経済と教育をご専門とされており、本報告内容に対して経済学の視点から多くの有益な助言をしてくださった。従来の代表的な理論ではとらえることができない中東湾岸諸国の高学歴化を大規模なアンケート調査とインタビューで説明を試みた点など、問題定義や研究の枠組みの面白さそして新しさを評価していただいたが、その地域の男性や外国人との比較の視点が欠けていることにたいして補足的意見も頂いた。また今後の分析に活用できる変数や統計処理に関するアドバイスや経済学の理論と関連先行研究に関する情報も得ることができた。今後、これらのアドバイスをもとに研究を発展させていきたいと考えている。

会議参加の感想

本会議への参加は、学術面だけでなく研究交流や文化体験など様々な面において非常に貴重な経験となった。各分野に専門家であるコメンテーターからのコメントがどれも建設的なものであ

たことはもちろん、学問分野も研究地域も様々な他の報告者と今後も持続的な交流を通してお互い学び合う仲となったことも大きな収穫である。会議以外の活動として、アルメニア教会に訪問した。ベイルートの街並みの変化が一目でわかる貴重な史料が展示されており、中東と西洋の文化が混在する現在のベイルートの成り立ちを知るきっかけとなった。これらの体験はすべて黒木英充先生、錦田愛子先生、そして東京外大AA研の方々のご配慮・ご支援と細やかなサポートで可能だったので、このような機会を与えて下さったことに心から深く感謝を申し上げたい。